

平成27(2015)年4月
信州大学農学部3学科は
農学生命科学学科に
生まれ変わります。

生命機能科学コース

動物資源生命科学コース

植物資源科学コース

森林・環境共生学コース

2015
AGRI-INNOVATION



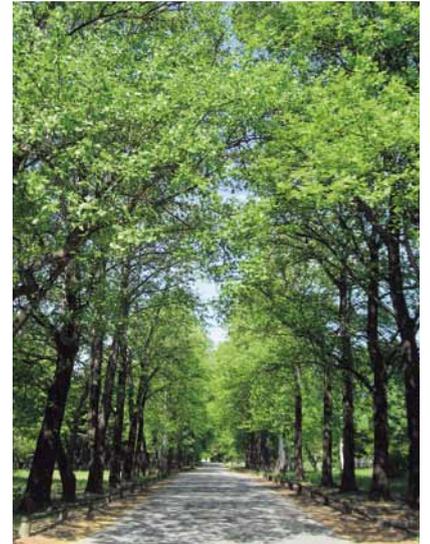
「革新」を 生みだす人に。



農を基盤とした
生命科学系高度専門職業人の養成をめざして

3学科から1学科(4コース)へ

ポストゲノムの時代にふさわしい農学系“理工系グローバル人材”を養成するため、これまでの3学科制を「農学生命科学科」1学科に改組します。新学科では、生命科学の広範な知識・技術を基盤とした幅広い修学体制の下で、自然豊かな環境を活かしたフィールド研究とラボ研究を連動させて生命・食料・環境を支える農学専門教育を充実させます。これにより自然と人が共生する持続的社会的創造に向けてグローバルに活躍できる人材を養成します。



信州大学農学部

●改組前の学科構成

食料生産科学科

森林科学科

応用生命科学科

●改組後平成27(2015)年度からの学科構成

農学生命科学科 [定員:170名]

●生命機能科学コース [募集人員:45名]

●動物資源生命科学コース [募集人員:40名]

●植物資源科学コース [募集人員:45名]

●森林・環境共生学コース [募集人員:40名]



2015
New born

農学生命科学科



学部の理念

信州の豊かな自然と風土のもとで、生命・食料・環境を支える農学を基盤とし、高度に進展する生命科学の視座を踏まえ、論理性、実践性、倫理性、創造性の高い教育と研究を行います。また、自然と人が共生する持続的社会の創造を目指し、広い視野と課題探求能力、国際性を備えた人材を養成します。

全コースに共通した科目群

- 【グローバル系科目】・・・グローバル人材を育成する充実した英語科目
- 【コース共通基礎科目・コース共通科目】・・・農学の基礎を支える生命科学系科目
- 【主専攻プログラム】・・・専門性を深め学生個々の能力を高めるコース制
- 【学際融合科目】学習意欲を高める副専攻コース→修了認定証の授与

新学科の 特色

フィールド研究とラボ研究を連動させた教育の実践

国際農学教育研究センター

グローバル系科目
[1-4年次]

▶ 国際性を備えた
人材の育成



先鋭領域融合研究群

コース共通科目
[2-4年次]

▶ 生命科学の基礎醸成



コース共通基礎科目
[1年次]

▶ 農学の基礎醸成



学際融合科目
[2-4年次]

▶ より高度な専門教育
(大学院)への導入

育成する 人材像

持続的社会の創造に貢献する人間性豊かな人材
生命科学分野の基礎能力と農学分野の応用能力を備えた人材
地域社会・国際社会で活躍できる人材
社会の一員としての問題意識と論理性・実践性・創造性・倫理性を備えた人材

生命機能科学コース

多様な生命活動を基盤とした新たな産業の創出に貢献

教育の
特色

生命現象を化学と生物学の視点から科学し、バイオケミストリーとバイオテクノロジーの基礎から応用にわたる教育・研究を行います。

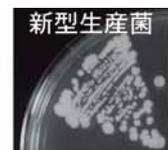
コースの教育研究



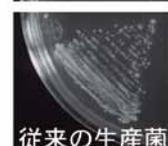
アミノ酸発酵菌



アミノ酸発酵菌の
ゲノム設計図



新型生産菌



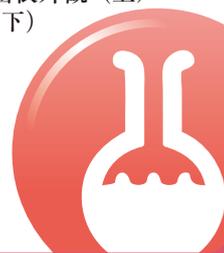
従来の生産菌

▲アミノ酸を生産する発酵菌のゲノム情報を読み解き、画期的な生産菌を創造する



◀左：野生のマツタケ
右：実験室的に作出されたマツタケの菌根外観（上）と横断面（下）

◀実験の様子：植物細胞の一部を切り出している



動物資源生命科学コース

人と動物が共生する心豊かな地域社会の構築に貢献

教育の
特色

動物の複雑な生命現象・行動をシステムとして捉え、分子レベルから個体群レベルにわたる動物科学・生命科学および資源利用学に関する教育・研究を行います。

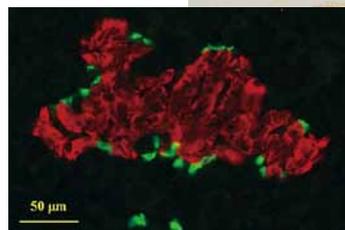
コースの教育研究



▲ゾンデを用いたマウスへの強制給餌



▲幹細胞を用いて作出したキメラ雛



▲ニワトリ胚島のB細胞（赤色）とD細胞（緑色）を示す蛍光顕微鏡写真



植物資源科学コース

持続可能な食料生産システムの構築に貢献

教育の 特色

環境に調和した持続的かつ高度な生産システムの実現に向け、農業生産の基盤となる植物資源を農学的・生命科学的視点で捉え、フィールドとラボの両面から教育・研究を行います。

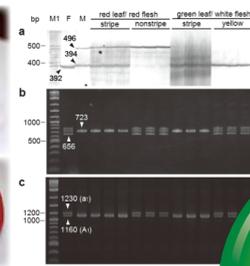
コースの教育研究



▲世界も地域も教育研究のフィールドだ!(左)ネパールでの農産物調査 (右)長野県の中山間地に適したトウガラシの開発に向けた人工交配



▲野菜や果物に秘められた力を最先端のテクノロジーで解明



▲果樹の育種を加速するDNAマーカー
本学部で開発された赤果肉リング品種
“ハニールージュ”



森林・環境共生学コース

持続可能な美しい循環型社会の構築に貢献

教育の 特色

山岳・森林域から里山・居住域に至る自然環境と人間との共生関係を科学的に俯瞰し、森林科学、防災工学および農村・緑地計画の基礎から応用にわたる教育・研究を行います。

コースの教育研究



▲演習林で間伐の実習。倒す方向をよく考えて伐採する(森林生産実践実習)



▲樹種の違いを考慮して木材の加工をする
(木材工学演習)



▲環境と調和した
快適な公園を設計する
(造園設計製図)



入試関連情報

●募集人員

平成27年度入試から、下記の募集人員によりコースごとに学生募集を行います。
日程及び詳細については、各入試の「学生募集要項」で必ず確認してください。

学部	学科・コース		入学定員	募集人員					
				一般入試		AO入試	推薦入試Ⅰ <small>センター試験を課さない</small>	帰国子女 入試	私費外国人 留学生入試
				前期日程	後期日程				
農学部	農学生命 科学科	生命機能科学コース	170	25	10	—	10	若干	若干
		動物資源生命科学コース		25	7	—	8	若干	若干
		植物資源科学コース		25	10	—	10	若干	若干
		森林・環境共生学コース		20	7	5	8	—	若干
	計		170	95	34	5	36		

●資料請求

学生募集要項等の資料請求方法を、農学部ホームページでご案内しています。
「入試情報」(<http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/agriculture/admissions/>)から
「資料(願書)請求方法」にアクセスしてください。

入試情報にアクセス! →



アクセス

■高速バス利用

出発地	バス種別	乗車時間	徒歩時間
東京方面から	新宿西口 高速バスターミナル	飯田線 約3時間10分	中央道伊那インター 徒歩12分
名古屋方面から	名鉄バスセンター	伊那線 約3時間10分	伊那インター前 徒歩12分
大阪方面から	阪急3番街バスターミナル	伊那・箕輪線 約5時間10分	伊那・箕輪線 徒歩15分
横浜方面から	横浜駅東口バスターミナル	伊那・駒ヶ根・飯田線 約4時間	中央道伊那インター 徒歩12分

■JR利用

路線	乗車時間	徒歩時間
JR飯田線	伊那バスターミナル 徒歩2分	伊那営業所 徒歩5分
JR伊那市駅	バスで17分	大学入口 (タクシー約10分)
<small>(タクシー利用の場合はJR伊那北駅でもよい)</small>		

■木曽より タクシー利用

JR中央線 JR木曽福島駅	約45分
------------------	------

※権兵衛トンネルを使用時

■日本位置図

農学部キャンパス
長野県上伊那郡南箕輪村



■近隣アクセスマップ



信州大学 | 農学部
SHINSHU UNIVERSITY

農学生命科学科

入試に関するお問合せは

<http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/agriculture/>

〒399-4598 長野県上伊那郡南箕輪村 8304

TEL.0265-77-1310 FAX.0265-77-1313

E-mail: nogakuweb@shinshu-u.ac.jp

平成26年9月 発行